



渡り木炭同業の 昨十二年度總勘定

債數で七萬五千餘を減じ 金額で廿四萬二千圓増

濱三郡木炭同業組合に於ける 昨十二年度の石炭相検査債數 は二百四十四萬三千七百八十八 依(八六四三三三)價格二 百六十六萬一千四百四十四圓 内地方消費六十四萬八千十 六依(二七六四二〇六)七十 五萬五千六百六十一圓六錢移 出百四十九萬五千七百七十二 依(五八七六四二五)百八十八 四萬五千四百七十九圓八錢

無言の凱旋

石城出身二勇士 徐州大會戦に於て敵國の鬼と となつたが右の港務所は商 港の脇に建つたもので將來は縣 有埋立地の貸付その他港の占 用を課徴に當る港務を處理 するものとなる管で電話は一 一八番である

戦地の便 ○○城に一番乗

平市才植小路出身 松本 茂雄

謹啓、盛夏の候愈々御隆盛 の段奉慶賀候、降て小生儀 其の後は御陰謀を以て元氣 益々旺盛目下〇〇に於て次 期作戦準備中に有之候、陳 者小生出征後は家族の者何 かと御世話様に相成恐縮致 居り候處本日また赤誠こ めたる慰問品御送付被下重 々の御芳情洵に難有奉深謝 候、過日は蔭介石ラインと 稱せられたる〇〇城に見ん

小名濱商港の 港務所

土木駐在も移る 平土木監督所々管小名濱技術 員駐在所は元内務省港務事務 所の看板を塗り替へた福島縣

中支第一線に活躍

平市南町出身 長谷川 芳雄

拜啓、不肖出征後は思ひ乍ら 遠御無音に打過ぎ誠に失 禮致しました、本日はまた 御丁寧なる御慰問品御送付 下さり誠に有難く厚く御

常識講座

デット・ロツクは故障 によつて工場などの休 業せるもの、單にデツ トは死んでゐる、亡き ものことだ、デバ、 チュアと云へば出費、 彼の世への旅立ち、逝 去されることである、

女子同窓の献金 平市女子同窓會では會員一八 〇名から集まる金十圓を今八 日會長甘南備たまさんの名で 血兵隊金を市役所に寄託す

三坂澤渡組合村 の産業組合創設 石城郡三坂、澤渡組合村では 産業組合創設の準備中であつ たが漸く具体化して昨七日午 前十時から澤渡小學校にこれ が創立總會を開いた、出席口 數は五百、一口廿圓であると

高飛三十里 前科三犯の男 官城縣栗原郡の青柳津久希 生れ窃盜刑科三犯清水政男 六は去る三日午後九時頃石城 郡湯本町三國地内の路側にあ つた同町山崎竹太郎所有自転 車三圓を窃取し當夜同町 駐在工寮の手に捕はれたが本 署の取調べにより去る七月十 日仙台東一番町中央マールケ ット前で所有不明の自転車 を窃取の小名濱町まで乗逃げ たことを自白し餘罪取調 へ中である

座敷着のまゝ、 半玉の高飛 前借三百圓踏倒 石城郡内郷村の宮居住坑夫高 乙 臨海校便 平第一小學校

折柄各位の御活動誠に感謝 に堪えませんが、當中支も愈 々本格的な大陸的氣候が訪 れて参りました、先は御禮 旁々各位の御健勝の程中支 の空より御祈致します、尚 ぼ留守中は何分共に宜敷御 願ひ申上げます、

軍人遺家族に 八百七十五圓 小名濱戦後會で 小名濱の戦後會では昨七日町 内出征軍人遺家族に對し舊盆 供養の慰問金として最高二十 圓、最低五圓計金八百七十五 圓を贈つた

中野浩忠氏 平市田町に齒科醫開業の長男 悪次氏方に醫務醫藥に手を盡 してゐた中野浩忠氏は去る七 日午後二時遂に逝去茶匙の鑿 は去る十三日(舊十八日)午後 一時生家石城郡神谷村に於 ける同地字風内金台寺にて告 別式を執行されるが翁は本縣 會議員三期を勤め政友會支部 幹事長の重職にも撰され神谷 村長二期、現平商業學校父兄 會長を勤めてゐた行年八十三 歳を満してゐる

平第一校の 臨海校より 第六報 於四倉海岸 長く突き出た堤防を 小さい人が一、二、三 赤、黒、黄色とりの、 水着が揃つて歩いてく 一列縦隊歩いてく

遠くに續く水平線 水平線の向ふには ポツカリ浮いた夏の雲 重なり合つた夏の雲

橋喜一郎方食新瀉縣中蒲原 郡五泉町生れ長岡市東千手町 藝妓置屋山崎まさ方抱え半玉 鈴木はな(六)は最近客に招ば れた座敷着のまゝ前借三百圓 を踏倒して逃走前記高橋方へ 潜伏したが被害者に於て七十 圓程の不正な借りをつくり叱 責されたのを苦にして家出し たもので平署に捕はれ保護中 である

其の後泳ぎの練習は 堤防の中へ入海で 犬かき背泳ぎグロウルと いろ／＼泳ぎの展覧會 又は風切るダイビング × × × 夕方方風呂に行く頃は 空に感じしうろこ雲 夕鏡小鏡にあか／＼と 明日七日こそ上天氣 約束してゐるうろこ雲

「お天氣が好いぞ誰かの聲 目が醒めた。直に起きて窓 を開く、未だ五時前だ、薄 い霧が四方に立ちこめてゐる が薄雲を散して青空がいくら が見える、今日こそ上天氣だ 間もなく起床の鐘が鳴り響く と一同元氣よく朝の行事に取 りかゝる、其の間にも空を注 意してゐたが段々と雲は濃く なり遂に細かい霧雨が降り初

朝會が終つて自習時間の頃雨 はあがつて雲の切れ間から幾 らか青空が顔を見せ初めたの で、僕達は大喜びで海へ出か けた、波は昨日よりすつと静 になつてゐた、午前中はいつ もの様で波遊び砂遊びに過し た、午後は記念撮影だ、お稻 荷様の鳥居をバックに皆のす ました顔、笑つた顔をカメラ に収めた、どんなに出来たか 楽しみだ。

其の後水泳の練習をする日が 出て居ないので大分寒い、四 時半宿舎に引上げて入浴する 美しいうろこ雲が夕焼に照り 映えてゐた、夕食後海岸を散 歩する、美しい月が明るい空 に懸つて雲に氣持よ、遠屋 崎燈台の光が薄暗い空に光を 投げける、明日の天氣が樂 しみだ。

中川製材所従業員 員の恤兵献金 平市大工町中川製材所従業員 一同は金十五圓を恤兵 献金方を今八日市役所に寄託

救つた看護婦 平市南町松村醫院の看護婦箱 崎かつ子、笹原貞子の兩嬢は 去る三十一日平、赤井驛間の 列車内で俄かに腹痛を起し苦 悶中の赤井村日曹業所従業員 員高野慶治君(四)を見て懇切 に看護し赤井驛に下車させて 驛前民家からリヤカーを借り 病苦の慶治君を乗せて同村松 村醫院の分院に運ば應急手当 を加へて日曹の同君宅に送り 届けたが病者は東京からの歸 途であつたもので兩看護婦の 善行は一般からも賞められて

僕らの楽しい臨海學校の三 日目、ひさしぶりでお日様が 出た。今日はいつと泳げるぞ みんなははははと泳ぎだすぞ 先生の後から汽車に乗つた 汽車は朝の空を飛ばすように

今日先生が水泳を教しへて くれた。始めの中は、いくら ばち／＼やつても前に進ま ない、先生が教へて下さるやうに、何れも／＼くり返して みるると体が少し前に進んだ。 うれしい、僕はちゆうで兩 足を動かした。みんなも一生 けんめいだ水の音でお話もわ からない、僕も早く先生のやうに泳ぎたいと思つた。それ

から一二、一二、のかけ聲で 大きなトーチカを作つた。さ んごうも／＼と／＼、おひる のごはんのおいしいこと、い くつも／＼もいたいた。 午後はおやつだ。僕も力一 はいにはしつたが三番だつた 今日ほんとのたのしい一日 だつた。せみの音を聞きなが ら／＼道についた。

雲州神國印ソロバン 優勝印高級ソロバン 〇〇印高級ソロバン ウエル 萬年筆 ライトインキ ムツリニペン 玉泉堂の書道筆 古梅園の書道墨

代理店 魁文堂

産業方面

支那卵運送の 日本凍卵

(下) 日本水産豊橋工場
の目下まじし活動
その頃まで(昨十二年六月
下旬)の卵と現在の十圓四、五
十錢では實に二圓四、五十錢
のはね上り方で鶏卵安と其れ
は反對に飼料高の爲め悩みつ
けて来た全國の養鶏家を喜
ばしてゐるだけでも農林省が
國策として馬力をかけた豊橋
凍卵の世界市場への進出的登
場なるもの一端が窺はれる
であらう、日本豊橋工場「日
本凍卵」の世界市場への發展
は斯く「支那凍卵」を一蹴する
に至つたことは其れと同時に
我が國の養鶏界に力強い活を
入れた譯であつて一時全く悲
觀の極に陥つた養鶏は復活か
ら復興への足並が目ざましい
勢で進められてゐるのであるが
右について豊橋工場の薩摩場
長の語るところを上ぐれば次
の如くである、

日本凍卵の新輸出は立派に
世界的の名聲を博し得た、
本事業は國策會社としての
使命の上からも其の關係が
全國的に互らねばならぬ、
其れ故に成るべく廣汎に農
村をうるほす意味で原料卵
をば遠隔な地方からも仕入
れてゐるのである、事業に
よつて打撃を受けた支那凍
卵を此の際一舉に減減させ
ようと云ふのがわれわれの
仕事なので、舞台は國際
市場だから一層はたき甲
斐があると思ふわけで工場
の設備も操作もまた製品も
共に理想的だから此の卵合
戦はわれわれの勝利と云ふ
ことに餘蘊なる成算がある

牛も豚も優良品の自慢
肉の御 **三三三屋** 平市 田町
用命は

食 喫 酒 喫 茶 喫
酒 湯 を 煮 ね た。
レストラ
サロシ
町田平 二五三電

内科、小兒科
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科
平市田町 電話五二三番
高久病院
院長 醫學士 高久忠

デリーサービス
材料のおまかせを願つて居
る爲め其の節々のおいしい
新鮮な物を御進め出来ま
すので御華客様からいつも御
好評を蒙りて居ります

日	土	金	木	水	火	月	日
ランチ	ランチ	ランチ	ランチ	ランチ	ランチ	ランチ	ランチ
CA	BA	CA	BA	CA	BA	CA	BA
差	差	差	差	差	差	差	差
上	上	上	上	上	上	上	上
ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま
す	す	す	す	す	す	す	す

RESTAURANT MARUTOMO
堂食モトルマ
平市通 車場通
電話 二三

お醤油は ヤマフル
山崎合名會社
電話 本営業部 二一七〇番
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

病室増築、手術室完備
産科 醫學博士
婦人科 **五十嵐雄二**
平市新川町 電話三六九番

御婦人用 御子様用
陳列 簡單衣 豊富
ツルヤ 平電一四〇

今般副院長として高橋俊幸氏を招聘し「内臓外
科一般外科皮膚泌尿器科」の診療に従事せしむ
平病院 (平市元共濟病院跡)
院長 醫學博士 鈴木定藏
院主 醫學博士 鈴木定藏

内 小 内
兒 兒 兒
科 科 科
部 部 部
長 長 長
佐藤幾要司 鈴木定藏 高橋俊幸
鈴木定藏 高橋俊幸 鈴木定藏
鈴木定藏 高橋俊幸 鈴木定藏

診療時間 毎日午前八時より午後九時まで
夜間診療に従事す(急患は此の限にあらす)

債券 公債 兩替 金融
多田井質店
平市大工町 電話五九一番

專 門 性 泌 尿 科
皮 膚 器 官 科
病 科 科
診療時間 午前八時より午後九時まで
醫學博士 江尻伊三郎
平市田町 電話六九一番
院醫尻江

金 赤 赤 赤
良 品 廉 價
藥 店
高橋屋
電話 町田平 二五三電

平市搔搔小路
整形科醫院
電話五八八番